

【特別支援学校用】

令和5年度学校評価計画

学校名		佐賀県立唐津特別支援学校																																														
1 前年度 評価結果の概要		・学校の教育目標に沿った教育活動を実施することができた。新型コロナウイルス感染拡大防止と並行しながら学校行事や学習活動を工夫し、ほぼ予定どおりの活動を行うことができ、児童生徒の主体的に学ぶ意欲や活動を後押しすることができた。 ・令和5年度においては、本年度の反省を生かし、更に工夫を重ねながら、充実した教育活動を行いたい。また、児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、学校、家庭、地域が連携しながら学校の教育目標を実現したい。さらに業務や行事を精選しながら働きやすい職場の実現に取り組みたい。																																														
2 学校教育目標		児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」をはぐくむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。																																														
3 本年度の重点目標		○子どもが今日の学校生活に満足し、明日の学校生活を期待することができる学校をつくる。 ○子どもが今日の学校生活を「自分から」「自分で」取り組み、「やりがい」「手ごたえ」を感じ、「精一杯」「存分に」活動し、「充実感」「満足感」に浸ることができる学校をつくる。																																														
4 重点取組内容・成果指標																																																
(1)共通評価項目																																																
<table><tr><th colspan="3">重点取組</th><th rowspan="2">具体的取組</th></tr><tr><th>評価項目</th><th>取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th></tr><tr><td rowspan="2">●学力の向上</td><td>●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着</td><td>○個別の教育支援計画・個別の指導計画の内容について、十分な相談や説明があったと回答する保護者の割合70%以上。 ○個別の指導計画を適切な指導・支援に十分に生かすことができていると回答する職員の割合60%以上。</td><td>・個別の教育支援計画について、個人面談前に各学部係で確認し、適切な指導・助言を行い、保護者とともに作成するものであることも併せて確認する。 ・個別の指導計画作成において、学級内での協議を行えるように、個別の指導計画の読み合わせを計画する。時間をできるだけ確保できるように、早下校に合わせて実施する。</td></tr><tr><td>◎子どもの主体的な学びと育ちにつながる授業づくりのさらなる充実</td><td>○学校の満足度に関する項目についての保護者の評価の平均 3.7以上。 ○合同職員研修会 年間2回、各学部職員研修会 年間10回程度。</td><td>・各学部で各教科等を合わせた指導についての研修会や授業研究会を行う。 ・公開全体授業研究会に講師を招聘し、指導・助言を受ける。</td></tr><tr><td rowspan="4">●心の教育</td><td>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</td><td>○仲間とともに活動することにより達成感を味わい、コミュニケーションを取り合う力を育むことができる行事や活動・場面の設定、学期に2回以上。</td><td>・生活単元学習や作業学習等において、自分の役割を果たすことができる活動を盛り込む。 ・様々な人々とコミュニケーションを取り合う力を育むため、就業・施設体験や販売学習等を実施する。</td></tr><tr><td>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</td><td>○職員は児童生徒の問題やトラブル等に適切に対応していると回答する保護者の割合90%以上。</td><td>・年2回の学校生活アンケートによるいじめの認知・認知をし、組織的に早期の対応を図る。 ・学校生活の中で起きた事案に対して、適切な対応をとる。</td></tr><tr><td>●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。</td><td>●「先生はあなたのよいところを認めてくれたと思う」と回答した児童生徒・保護者の評価の平均3.7以上。</td><td>・学校生活の様々な場面において、意欲的に取り組むことができるように「できる状況」を心がける。 ・保護者に対して、児童生徒の頑張りと成長を学級通信や連絡帳等で伝えていく。</td></tr><tr><td>○明るく楽しい学校づくり</td><td>○挨拶や明るい学校づくりに関する項目についての職員・保護者の評価の平均3.7以上。</td><td>・登下校時には、児童生徒や保護者に対し、笑顔添えて明るい挨拶をすることを心掛ける。 ・校内では、児童生徒に対し挨拶や言葉かけを積極的に行い、明るく楽しい学校づくりに努める。</td></tr><tr><td rowspan="2">●健康・体づくり</td><td>●「安全に関する資質・能力の育成」</td><td>●各学部ごとに年6回以上の交通指導を行う。</td><td>・年度初めに「交通安全教室」を実施し、交通ルールやマナーを学ぶ機会を設ける。 ・各月初めに単独通学生に対して、公共交通機関を利用する上の注意点や最近話題になった交通事故やトラブルなどの情報で注意喚起する。 ・各学期始めに通学指導として、登下校中の見守り指導や支援をする。 ・校外学習の事前学習等で交通マナーについての学習に取り組む。</td></tr><tr><td>○安全防災及び安全衛生に係る教育の充実</td><td>○安全防災及び安全衛生(感染症対策含む)に関するアンケート結果について、職員・保護者ともに3.7以上の評価を目指す。</td><td>・安全防災教育における各種避難訓練を行い、急な自然災害に対する備えをする。</td></tr><tr><td rowspan="2">●地域支援</td><td>●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実</td><td>○特別支援教育に係る研修会の実施 ○地域支援に関する項目についての職員の評価の平均 3.6以上。</td><td>・本校職員の専門性や資質向上を図るため、年に1回は、外部より講師を招いて、特別支援教育に係る研修会を実施する。 ・各学校の実態を踏まえた上で適切な支援内容や支援方法についての指導・助言を行う。</td></tr><tr><td>○特別支援教育エリアーダーとの連携</td><td>○特別支援教育エリアーダーとの情報交換会や合同研修会の実施。</td><td>・特別支援教育エリアーダーとの情報交換の機会を設け、地域支援についての情報交換をし、研修会についても検討する。</td></tr><tr><td>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td><td>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</td><td>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</td><td>・定時退勤日の設定で意識改革を図り、個人研修の日やパーソナルタイムにより時間を確保する。 ・業務改革として会議時間と会議回数の1割削減に努める。</td></tr></table>				重点取組			具体的取組	評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○個別の教育支援計画・個別の指導計画の内容について、十分な相談や説明があったと回答する保護者の割合70%以上。 ○個別の指導計画を適切な指導・支援に十分に生かすことができていると回答する職員の割合60%以上。	・個別の教育支援計画について、個人面談前に各学部係で確認し、適切な指導・助言を行い、保護者とともに作成するものであることも併せて確認する。 ・個別の指導計画作成において、学級内での協議を行えるように、個別の指導計画の読み合わせを計画する。時間をできるだけ確保できるように、早下校に合わせて実施する。	◎子どもの主体的な学びと育ちにつながる授業づくりのさらなる充実	○学校の満足度に関する項目についての保護者の評価の平均 3.7以上。 ○合同職員研修会 年間2回、各学部職員研修会 年間10回程度。	・各学部で各教科等を合わせた指導についての研修会や授業研究会を行う。 ・公開全体授業研究会に講師を招聘し、指導・助言を受ける。	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○仲間とともに活動することにより達成感を味わい、コミュニケーションを取り合う力を育むことができる行事や活動・場面の設定、学期に2回以上。	・生活単元学習や作業学習等において、自分の役割を果たすことができる活動を盛り込む。 ・様々な人々とコミュニケーションを取り合う力を育むため、就業・施設体験や販売学習等を実施する。	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員は児童生徒の問題やトラブル等に適切に対応していると回答する保護者の割合90%以上。	・年2回の学校生活アンケートによるいじめの認知・認知をし、組織的に早期の対応を図る。 ・学校生活の中で起きた事案に対して、適切な対応をとる。	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれたと思う」と回答した児童生徒・保護者の評価の平均3.7以上。	・学校生活の様々な場面において、意欲的に取り組むことができるように「できる状況」を心がける。 ・保護者に対して、児童生徒の頑張りと成長を学級通信や連絡帳等で伝えていく。	○明るく楽しい学校づくり	○挨拶や明るい学校づくりに関する項目についての職員・保護者の評価の平均3.7以上。	・登下校時には、児童生徒や保護者に対し、笑顔添えて明るい挨拶をすることを心掛ける。 ・校内では、児童生徒に対し挨拶や言葉かけを積極的に行い、明るく楽しい学校づくりに努める。	●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●各学部ごとに年6回以上の交通指導を行う。	・年度初めに「交通安全教室」を実施し、交通ルールやマナーを学ぶ機会を設ける。 ・各月初めに単独通学生に対して、公共交通機関を利用する上の注意点や最近話題になった交通事故やトラブルなどの情報で注意喚起する。 ・各学期始めに通学指導として、登下校中の見守り指導や支援をする。 ・校外学習の事前学習等で交通マナーについての学習に取り組む。	○安全防災及び安全衛生に係る教育の充実	○安全防災及び安全衛生(感染症対策含む)に関するアンケート結果について、職員・保護者ともに3.7以上の評価を目指す。	・安全防災教育における各種避難訓練を行い、急な自然災害に対する備えをする。	●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○特別支援教育に係る研修会の実施 ○地域支援に関する項目についての職員の評価の平均 3.6以上。	・本校職員の専門性や資質向上を図るため、年に1回は、外部より講師を招いて、特別支援教育に係る研修会を実施する。 ・各学校の実態を踏まえた上で適切な支援内容や支援方法についての指導・助言を行う。	○特別支援教育エリアーダーとの連携	○特別支援教育エリアーダーとの情報交換会や合同研修会の実施。	・特別支援教育エリアーダーとの情報交換の機会を設け、地域支援についての情報交換をし、研修会についても検討する。	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定で意識改革を図り、個人研修の日やパーソナルタイムにより時間を確保する。 ・業務改革として会議時間と会議回数の1割削減に努める。
重点取組			具体的取組																																													
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)																																														
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○個別の教育支援計画・個別の指導計画の内容について、十分な相談や説明があったと回答する保護者の割合70%以上。 ○個別の指導計画を適切な指導・支援に十分に生かすことができていると回答する職員の割合60%以上。	・個別の教育支援計画について、個人面談前に各学部係で確認し、適切な指導・助言を行い、保護者とともに作成するものであることも併せて確認する。 ・個別の指導計画作成において、学級内での協議を行えるように、個別の指導計画の読み合わせを計画する。時間をできるだけ確保できるように、早下校に合わせて実施する。																																													
	◎子どもの主体的な学びと育ちにつながる授業づくりのさらなる充実	○学校の満足度に関する項目についての保護者の評価の平均 3.7以上。 ○合同職員研修会 年間2回、各学部職員研修会 年間10回程度。	・各学部で各教科等を合わせた指導についての研修会や授業研究会を行う。 ・公開全体授業研究会に講師を招聘し、指導・助言を受ける。																																													
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○仲間とともに活動することにより達成感を味わい、コミュニケーションを取り合う力を育むことができる行事や活動・場面の設定、学期に2回以上。	・生活単元学習や作業学習等において、自分の役割を果たすことができる活動を盛り込む。 ・様々な人々とコミュニケーションを取り合う力を育むため、就業・施設体験や販売学習等を実施する。																																													
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員は児童生徒の問題やトラブル等に適切に対応していると回答する保護者の割合90%以上。	・年2回の学校生活アンケートによるいじめの認知・認知をし、組織的に早期の対応を図る。 ・学校生活の中で起きた事案に対して、適切な対応をとる。																																													
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれたと思う」と回答した児童生徒・保護者の評価の平均3.7以上。	・学校生活の様々な場面において、意欲的に取り組むことができるように「できる状況」を心がける。 ・保護者に対して、児童生徒の頑張りと成長を学級通信や連絡帳等で伝えていく。																																													
	○明るく楽しい学校づくり	○挨拶や明るい学校づくりに関する項目についての職員・保護者の評価の平均3.7以上。	・登下校時には、児童生徒や保護者に対し、笑顔添えて明るい挨拶をすることを心掛ける。 ・校内では、児童生徒に対し挨拶や言葉かけを積極的に行い、明るく楽しい学校づくりに努める。																																													
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●各学部ごとに年6回以上の交通指導を行う。	・年度初めに「交通安全教室」を実施し、交通ルールやマナーを学ぶ機会を設ける。 ・各月初めに単独通学生に対して、公共交通機関を利用する上の注意点や最近話題になった交通事故やトラブルなどの情報で注意喚起する。 ・各学期始めに通学指導として、登下校中の見守り指導や支援をする。 ・校外学習の事前学習等で交通マナーについての学習に取り組む。																																													
	○安全防災及び安全衛生に係る教育の充実	○安全防災及び安全衛生(感染症対策含む)に関するアンケート結果について、職員・保護者ともに3.7以上の評価を目指す。	・安全防災教育における各種避難訓練を行い、急な自然災害に対する備えをする。																																													
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○特別支援教育に係る研修会の実施 ○地域支援に関する項目についての職員の評価の平均 3.6以上。	・本校職員の専門性や資質向上を図るため、年に1回は、外部より講師を招いて、特別支援教育に係る研修会を実施する。 ・各学校の実態を踏まえた上で適切な支援内容や支援方法についての指導・助言を行う。																																													
	○特別支援教育エリアーダーとの連携	○特別支援教育エリアーダーとの情報交換会や合同研修会の実施。	・特別支援教育エリアーダーとの情報交換の機会を設け、地域支援についての情報交換をし、研修会についても検討する。																																													
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定で意識改革を図り、個人研修の日やパーソナルタイムにより時間を確保する。 ・業務改革として会議時間と会議回数の1割削減に努める。																																													
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目																																																
<table><tr><th colspan="3">重点取組</th><th rowspan="2">具体的取組</th></tr><tr><th>評価項目</th><th>重点取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th></tr><tr><td>○進路指導</td><td>○一人一人に即した進路指導の充実</td><td>○児童生徒及び保護者のニーズに応じた進路指導に関する項目についての保護者の評価の平均 3.6以上。</td><td>・保護者向けの進路学習会を、学齢や時期に応じて適切に実施する。 ・福祉サービス事業所の情報収集、提供に努める。 ・生徒の就業・施設体験先としての新規の企業を開拓する。</td></tr></table>				重点取組			具体的取組	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	○進路指導	○一人一人に即した進路指導の充実	○児童生徒及び保護者のニーズに応じた進路指導に関する項目についての保護者の評価の平均 3.6以上。	・保護者向けの進路学習会を、学齢や時期に応じて適切に実施する。 ・福祉サービス事業所の情報収集、提供に努める。 ・生徒の就業・施設体験先としての新規の企業を開拓する。																																		
重点取組			具体的取組																																													
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)																																														
○進路指導	○一人一人に即した進路指導の充実	○児童生徒及び保護者のニーズに応じた進路指導に関する項目についての保護者の評価の平均 3.6以上。	・保護者向けの進路学習会を、学齢や時期に応じて適切に実施する。 ・福祉サービス事業所の情報収集、提供に努める。 ・生徒の就業・施設体験先としての新規の企業を開拓する。																																													

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育